

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児デイサービス おはないみず		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日 ～ 2026年 1月 8日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日 ～ 2026年 1月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちは安心して楽しく通えている	送迎時や、連絡帳を通して子どもたちの利用時の様子をお伝えしています。また、学校や家庭での様子もお聞きし、情報交換を密に行うよう心がけています。	送迎時だけでは短いコミュニケーションになってしまうため、ニーズがあれば面談の機会も増やしていきます。
2	利用者様主体のサービスの提供	多職種に富んでおり手厚い支援に取り組んでいます。定期的に利用者様、保護者様の要望・意見を聞いて取り入れており、一人ひとりに合わせた活動を行っています。	支援プログラム、活動プログラムをより充実させた支援体制の構築。 利用者様、保護者様との信頼構築。 定期的に研修・学習会の参加をし、プログラムに取り入れていきます。
3	職員間での情報共有	職員同士がコミュニケーションを取りやすい環境を心がけています。 昼礼時、利用者様が帰った後に振り返りを行い、情報共有に努めています。その日に出動していない職員に対しては、LINEのノート機能を活用して共有しています。	今後も引き続き取り組み、一人一人が意識していけるように心がけていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様への情報発信	保護者様への情報発信をしているが、周知されていない部分がある。	3カ月に1回発行しているおはな通信や、ホームページ、SNS等を使用し、適宜情報を発信していきます。
2	地域との連携	重身のお子さんが多いため、天候や感染状況が理由で行えないことが多い。	感染対策の徹底。感染状況の確認を行い、出来る限りリスクを縮小した状態で、ボランティアや外部講師を受け入れます。 事前に外出先の設備等の確認を十分に確認していきます。
3	災害に対する対応	災害に対する職員の認識が低い。訓練はしているが回数が少なかったり、曜日によって利用者様が変わったりするため避難方法が定着しておらず、実際に起きた時の対応方法が不十分である。	災害に依じての訓練や、利用者様に依じての訓練など、定期的に避難訓練を行っています。 マニュアルの読み込みを行い、話し合ったことで変更があれば共有していきます。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果－放課後等デイサービス－

事業所名	多機能型重症児デイサービスおはな いみず
------	----------------------

公表日 年月日 R8年 2月27日

利用児童数 年月日 2026年 1月 9日

回収数 7名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6			1		清掃を行い、清潔な環境を維持しています。バーテーションを活用し、活動に応じてプライバシーが確保できる空間づくりを工夫しています。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7				子どもの好き、得意を会話の中から上手に引き出し支援につなげてくださっている。	支援の質を高めるための研修等を、今後も行っています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7				子どもの好き、得意を会話の中から上手に引き出し支援につなげてくださっている。	子ども自身が主体性を育めるような関わりを、今後も行っています。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7				子どもの好き、得意を会話の中から上手に引き出し支援につなげてくださっている。	子ども自身が主体性を育めるような関わりを、今後も行っています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7				子どもの好き、得意を会話の中から上手に引き出し支援につなげてくださっている。	子ども一人一人にあった活動や支援を考え、サービス計画をたてていきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7				子どもの好き、得意を会話の中から上手に引き出し支援につなげてくださっている。	子ども一人一人の計画に沿って、今後活動や支援を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3		1		感染症等の対策を講じつつ、開催時期などを考えた上で今後検討していきます。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	2		1		次年度は計画を立て、機会を設けていきたいと考えています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	1			次年度は計画を立て、機会を設けていきたいと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	1				相談や申し入れの体制は整備済みであり、情報共有がされていないことに気付きました。今後は周知していただけるよう共有していきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1				今後は周知していただけるよう共有していきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7					
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				柔軟な対応にとても満足している	今後も満足していただけるよう、保護者や学校等と連携を取りながら育ちの支援に努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果-放課後等デイサービス-

事業所名		多機能型重症児デイサービスおはな いみず			公表日		R8年 2月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2		利用者が大きくなった時、5人利用は狭いと感じる。 次年度、夏頃に移転の予定あり。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	仕切りやスロープなど使用し、工夫しながら対応している。	玄関の段差が危ないと感じる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	3	仕切りやスロープなど使用し、工夫しながら対応している。	個室又は落ち着けるスペース作りが必要では？		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		時間の確保を行い、職種やシフトで括らず FtoFで行うよう努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1		面談時間の30分は短いと思う。 学校や家庭と連動しながら、利用時間に可能かつ可能な支援を。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1		面談時間の30分は短いと思う。 学校や家庭と連動しながら、利用時間に可能かつ可能な支援を。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8					

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1		個別支援計画が薄いと感ずるため、活動の計画（目標）がブレてしまう。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			F t o Fで行うのがベスト。実体験は鮮度の良いうちに共有、フィードバックをしたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			面談時間の30分は短いと思う。 学校や家庭と連動しながら、利用時間に可能かつ可能な支援。学校とデイサービスで目的がどう違うかなど共有したい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		親伝いの情報が多く、その情報が不確か。⇒連絡帳かお迎え時、モニタリングでしっかり確認する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳への情報は多く記載している。お迎えの時もできるだけ伝えたいと思っているが、保護者によっては難しい。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		知識があるのでやっていきたいが、それが学校の業務なのか放デイの業務なのか。今の利用時間だと難しい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	父母の会は無く、今年度1回お試しでテーマを決めてお話し会を開催した。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		次年度よりおはな通信は、PDFで送る。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	2	LINE Worksの導入を検討中。	LINEでどこまで共有しても良いものか？ソフトなどを使うことで、ある程度守れないか。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	今年度は、地域の演奏団体をお呼びしての演奏会、近くの短大生ボランティアサークルの受け入れ、外部講師を招いてリトミックを行った。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギー児の利用無し。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			